

第2回 千歳市かわまちづくり検討会資料

アンケート分析結果について

令和6年2月29日

コンセプトの設定等に対する意見

→ 水辺とまちづくりの基本方針（案）への反映を検討

- 「地元利用」と「観光利用」のどちらも視野に入れた整備
- 周辺住民の理解、自然環境保全（治水・植生物）へ配慮しつつ、市民・来訪者が活用できる計画となることが望ましい
- 千歳川周辺を日常的に回遊し、このエリアを愛する市民を醸成することが第一、市民の理解と協力は不可欠
- 基本は地元市民（学校や幼稚園・保育園なども含めて）が利用してくれることを第一

ソフト施策、利用面への意見

→ ソフト施策候補への反映を検討、近隣住民への配慮は十分に検討する

- 歩いて又は自転車に乗って、気持ちが良い、楽しくなる（ワクワク）景観ができると利用したくなる
- 河川敷でのバーベキューやキャンプは、フリーエリアとしてであれば、ゴミや騒音などマナー等の問題から維持管理が難しい
- 車社会であり、川辺を楽しみたくても付近に駐車できるスペースが無いと、本当に川の近隣に住む方しか訪れない
- 河川敷や街区公園内で無断でバーベキューを行い、ごみや炭、花火の燃え殻等を放置して帰るマナーの悪い利用者が多数報告
- 周辺の道路に長時間不法駐車を招く恐れがあり、慎重に検討していただきたい
- 千歳川遊歩道とグリーンベルトを回遊する散策、ウォーキング、ランニングのコースを設定
- 事業者が「手ぶらでBBQ」プランを提供することにより、観光客の興味を惹きつけられるかもしれない
- 千歳市民と道内観光客は車で、道外・海外観光客や出張者は主に徒歩で移動すると思います。各ターゲットの交通手段を前提に動線を考えていきたい
- グリーンベルト上を、駅前通り～千歳川河岸まで誘導する仕組みが必要
- 支笏湖のサイクルバスはとても良いアイデア
- 千歳川そのものを売りにしたプログラム
- 「水のきれいな千歳川、千歳市」を徹底してアピールし、人を呼び込む。千歳川の水質日本一（有数）の水を軸に環境に負荷をあまりかけない自然体験のアクティビティ（オオワシ、オジロワシ観察、サケ、サクラマス観察、森林散策、溪流釣りなど）とあわせて旅行者を市街にも呼び込める
- 不法な駐車、ゴミ、騒音など、リバーシティの時も事前に町内会に話したうえで毎回一軒一軒まわっていました。

ハード施策への意見 → ハード施策候補への反映を検討

- 道の駅裏に地元や近隣の子どもが利用できる環境教育フィールドでありカヌー等のアクティビティ出艇場所等に利用できる整備
- 案内看板等に各種情報提供（施設紹介、アクセス、外国語表示等）が出来るようなQRコードの掲示を提案
- 自然エネルギーの活用やごみを減らす工夫がされている整備（太陽光発電の街灯、トイレ、給水スポットなど）
- カヌーやボートの発着場については、川利用の促進につながるとは考えますが、現在、よく利用されているスタート地点がウサクマイ遺跡付近が多く、そこからの連動で、どのあたりが有効か一連の流れで考えてみる必要がある
- 水辺への昇降場所の整備は、周辺の道路に長時間不法駐車を招く恐れがあり、慎重に検討していただきたい
- グリーンベルト清水町側の親水公園と東雲町側にかけて人道橋を架け、千歳中学校から師団通りの旅人の森まで南北方向に往来できる導線をつくる
- 高齢者や障がい者の利用を考えると、中間地点にあたる下流右岸のハルニレ公園、下流左岸の末広東公園等に休憩スペースを設ける
- 親水公園と対岸エリアを繋ぐ「橋（人道橋）」を架け、対岸エリアや市役所側エリアと一体となった利用を検討
- 高水敷を作ることで、より川に近く、より人目につかずに過ごせる
- 子供が遊べる河岸があると良い
- サーモンパークや千歳駅周辺にサイクルステーションを作ること、河川敷の道が途切れてしまう部分のルートを正式に決定し案内標識を作ること（特に新橋、仲の橋、36号線）ができれば嬉しい

カヌー利用の検討範囲の拡大（北海道区間）、人道橋の整備についてご意見をいただきたい。

維持管理への意見 → 維持管理への反映を検討

- 継続した維持管理が大切
- 「清流と緑を守る市民の会」などを母体として、千歳川を愛する利用者を中心とした管理ボランティア組織を同時期に立ち上げることを提案
- 「ゴミ拾いにご協力ください」の看板も設置すると良いと思います。訪問客も景観保護・自然保護に巻き込める仕組み

ボランティア組織の立ち上げについてご意見をいただきたい。